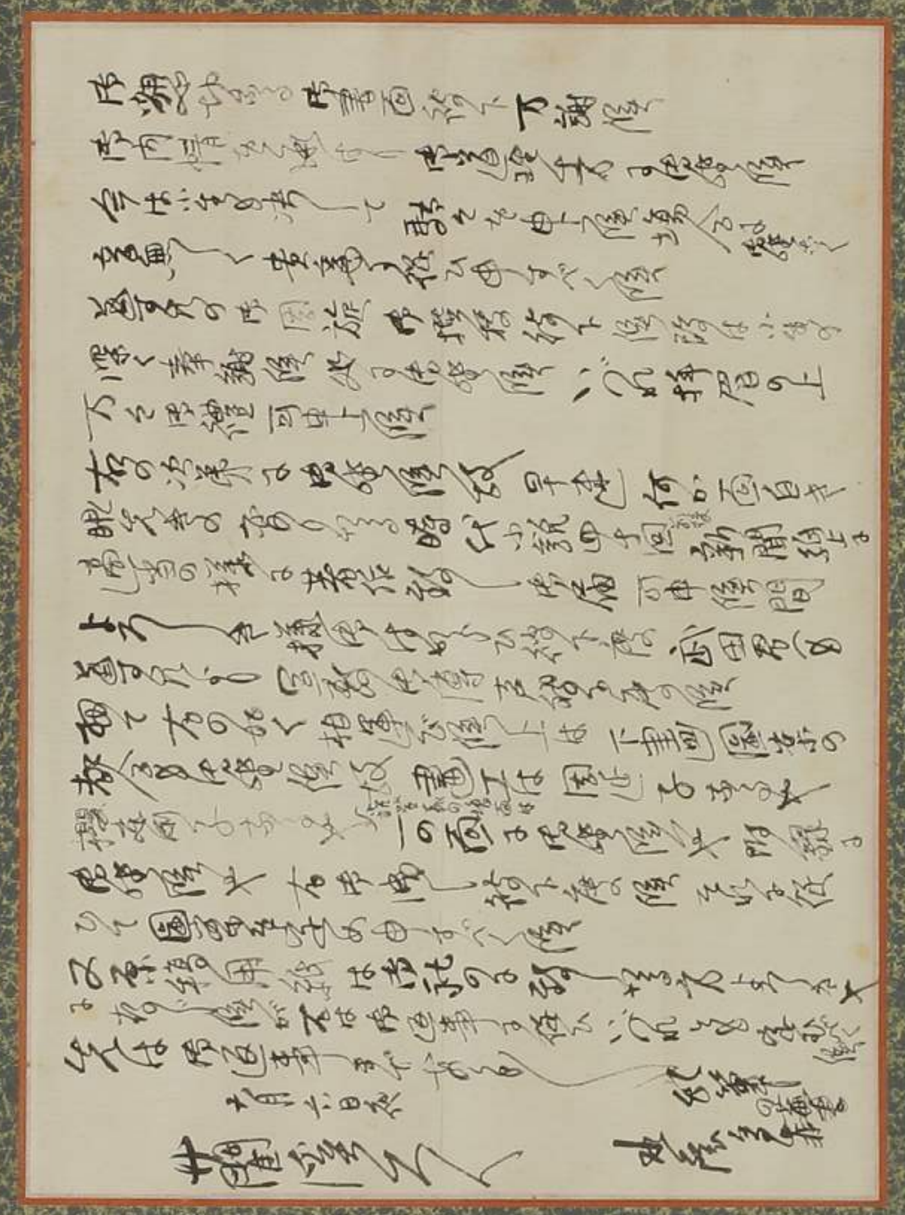
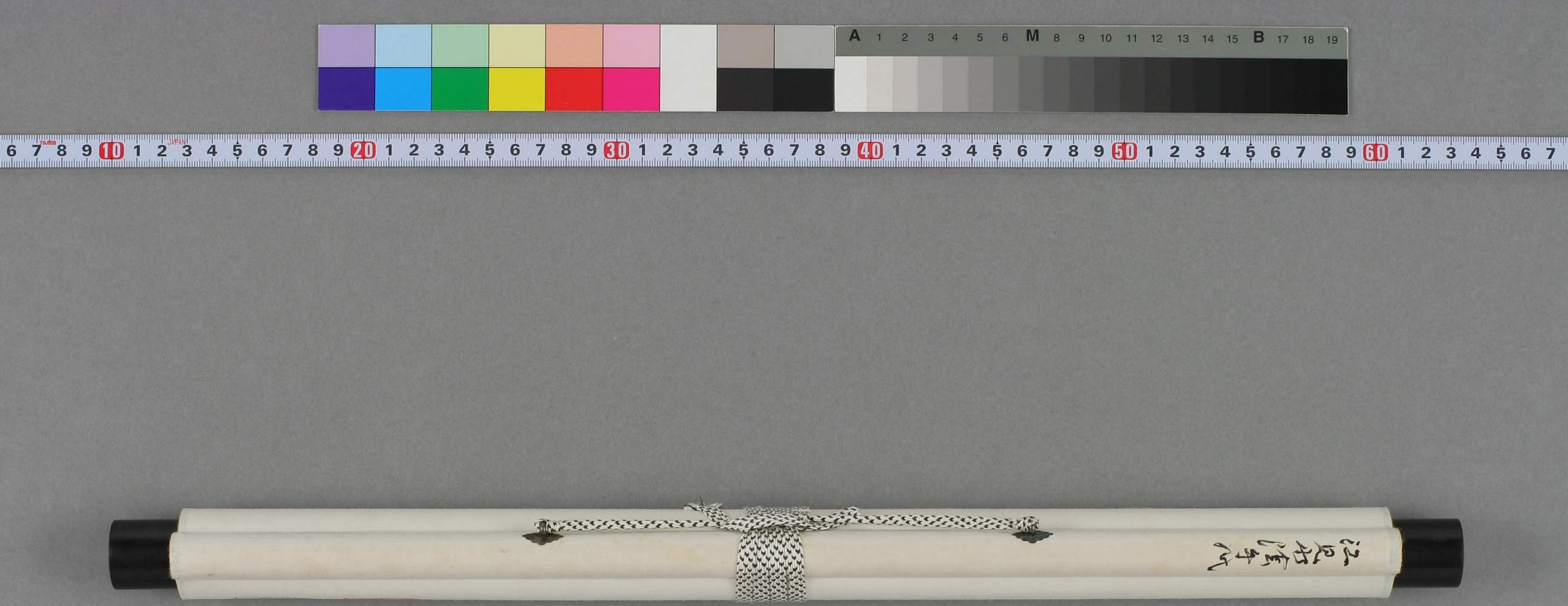
所望に付ては書面差下し万謝候
所内情を御通知すり道理なる事候
今はいそぎて動をも申候場合なれ
ども無くく貴意を伺ひ申すべく候
為其の所用旅所は小生の
深く事謝候処なる所なれ
ども御礼可申上候
右の次第なれ共何か面白き
明治の事ありなる時は小説四の後新聞紙上
高説の様なる著作新
よろしき様はめるひ神下度の武田君(又
為其より宣敷申候声聞する度の候
相て右の如く相事び候上は下書四園案の
都合なる所為故書工は園正なるや
攫速刷なるやの場合は
一の面なる所為や附録
所為候や右所為
ひて園正なるめ申すべく候
又原稿用紙は市社のる所なる方よるき
なるは所為が不は所為事す
先は所為事までかの
七月六日夜
紙筆の藤書
世間隆之